

ベトナム・マレーシア固形廃棄物 3R 啓発活動推進プログラム（那覇モデル）
これまでの成果

1 概要

ベトナム・ホイアン市とマレーシア・サバ州の両国において、市民の意識の低さ、廃棄物管理計画策定の遅れなどから、「ごみ減量」を市民が行動に移すための施策展開が課題となっている。行政・市民・企業が協働の取り組みにより定着してきた那覇市の 3R 推進の仕組みをモデルとし、両市における効果的な 3R 推進を支援することを目的に、本プロジェクトが那覇市及び沖縄リサイクル運動市民の会から提案、2008年8月から3年間の活動を実施してきた。両国は「那覇モデル」を学び実施してきた結果、各組織の人材(計13人)が育成され組織力強化が行われた。

プロジェクトの目標等は以下のとおり。

(1) プロジェクト実施期間及び対象機関

実施期間：2008年4月～2011年3月（3年間）

提案団体：那覇市、沖縄リサイクル運動市民の会

対象機関：(ベトナム) ホイアン市天然資源環境局、ホイアン市公共土木工事公社
(マレーシア) サバ州環境行動センター (EAC)、サバ州内自治体

(2) プロジェクト目標

市民団体・企業・行政の協働による、固形廃棄物の減量・リサイクル等 3R に関する啓発事業を推進するための人材を育成する。

(3) アウトプット（期待される成果）

①沖縄の基本的なゴミ処理の仕組みを理解する。

②沖縄のリサイクルの流通システムを理解する。

③沖縄の市民団体・企業・行政などそれぞれの主体が行っている 3R に係る啓発事業の手法や課題を学ぶ。

④3R 啓発活動が準備され、実践される。

2 プロジェクトの成果

(1) ベトナムの成果

- ・「那覇モデル」を参考にした、ホイアン市廃棄物処理計画が策定された。

計画は、①カムティンモデル地区での 3R プログラム、②事業所のごみ対策、③学校における環境教育、④家庭ごみの処理、⑤チャム島でのビニール袋削減計画、⑥最終処分場の確立の6つからなる。現在この計画に基づき、チャム島での「ノービニール袋運動」、家庭での「コンポスト実験」、学校教員を対象とした「環境教育プログラム」が実践されている。

- ・2009年4月には翁長那覇市長とホイアン市スー市議会議長との衛星テレビによるトップ会談が実現した。



翁長那覇市長とのTV会談



ノービニール運動



終了時評価の確認書署名

(2) マレーシアの成果

- ・サバ州において「マレーシア版買い物ゲーム」が2010年以降、7回実施された。
- ・カウンターパートのEACは、今後「マレーシア版買い物ゲーム (EAC ECO Shopping Game)」を推進するための2年間の実施体制や進め方などを定めたアクションプランを立てた。
- ・EACは、サバ州の各自治体と連携し“Bring your own bag on Monday”キャンペーンを2010年6月から開始、61商店、55のドラッグストアが参加し、展開している。2011年1月からは週3回に拡大、1レジ袋あたり20セン徴収し、集まったお金はEACの活動資金に利用されている。



沖縄での研修



マレーシア版買い物ゲーム実施



終了時評価の確認書署名

3 プロジェクト終了後の方針

(1) ベトナム

ホイアン市では、フランス支援によるコンポスト工場の完成に伴い、現行の廃棄物処理計画の見直しが課題となっている。この計画は、ホイアン市民自らで作るべきであり、そのために市民リーダー（ファシリテーター）を育てていくことが重要となる。今後のあり方については、廃棄物処理計画への支援とリーダーの育成に焦点を当てた案件形成を検討していくこととした。

(2) マレーシア

EAC及びサバ州環境保護局からは、「買い物ゲーム」を現地で展開するための人材育成や普及のノウハウ、実施体制の確立に対する支援が要請された。沖縄リサイクル運動市民の会は、本事業の協力効果の発現をフォローし、自立発展性を確保するため、「三井物産環境基金」による助成で、EACによる「マレーシア版買い物ゲーム」の普及展開に協力していくこととしており、JICAも側面支援を行うこととした。(三井物産環境基金協力期間：2010.10～2012.10)。

以上